

10月号より連載されている**佐藤智充副院長著述の連載(全6回)の第3回目**です。  
赤十字の成り立ちから現在まで、これを読めばあなたも赤十字通！！



# 戦争と災害と赤十字

## 第3回 第1次世界大戦の時代を背景に爪痕を残した人々

前月号で日本赤十字社がフランスの地で日本赤十字病院を開院し、1887年(明治20年)の創設以来27年目にして初めて国際協力の一翼を担うに至ったことを記述し、その時代の世界情勢について詳述したところである。今回は、第1次世界大戦の時代を背景にして世に出現し、良きにつけ、悪きにつけ、その時代および後世に大きな影響を与えることになった人物を紹介する。

**フリッツ・ハーバー**：ドイツの科学者。空気中から窒素を取り出す方法を発見(窒素固定法)し、窒素肥料を作ることにより飢餓に苦しむ世界中の人々を助け、ノーベル賞を受賞した。しかし一方で窒素を原料に毒ガスを製造し戦争で自ら指揮して使用。多くの兵や一般市民を殺戮した。同じく科学者であった妻クララは夫に抗議し拳銃で自殺。フリッツ・ハーバーはユダヤ人であり、結果的に自分が作った毒ガスで同胞であるユダヤ人をアウシュビッツで殺戮することとなり、フリッツ・ハーバー自身もスイスに亡命することとなった。博士の作った毒ガスはチクロン B としてユダヤ人の迫害やベトナムに於いても使われることとなった。同じくドイツの天才物理学者であったアインシュタインとは友人でありアインシュタインもフリッツ・ハーバーの研究を止めるように説得したものの止めることが出来なかった。

**ジョン・ロックフェラー**：アメリカで石油精製事業(スタンダード石油)を興し、石炭が燃料であった世界を一変させた。その子供たちもロックフェラー財団会長・アメリカ副大統領・アーカンソン州知事やチェース・マンハッタン銀行頭取など政財界で活躍し君臨することとなった。ジョン・ロックフェラーの経営手法は同業他社を圧倒的に潰す方法をとっており、悪魔と呼ばれた。労働争議に対して鎮圧部隊を出すことにより死者が出るなどもあり、社会運動家であるヘレン・ケラーからも強く非難されている。97歳で死去。

**ジョン・ロックフェラー Jr**：ジョン・ロックフェラーの息子。World Peace through trade(自由貿易による世界平和)の考えの下、ロックフェラー財団を設立。途上国の生活水準の向上に投資し、世界中に病院やインフラの整備を行った。アフリカでは黄熱病やマラリアの撲滅を目指した。安い賃金で労働者を雇い資本主義を世界中に広めた。その後さらにその息子であるデイビット・ロックフェラーはニューヨークに2棟の巨大ビルの建設に着手した。それが2001年9月11日に倒壊した World Trade Center(世界貿易センター)である。

**トーマス・エジソン**：発明王エジソンとして有名で電球などを発明。GE(ゼネラル・エレクトリック社)創業者。映画の製作も行っていたが、ユダヤ人移民がニューヨークで映画を製作・上映することに対して特許料を要求。ユダヤ人移民らはアメリカ西部を目指し、エジソンの目の届かないところで映画会社を設立。これがハリウッドであり、パラマウント映画・ワーナーブラザーズ・20世紀フォックスなどビッグファイブと呼ばれる映画会社が出来ることとなった。これらの映画の製作・俳優の化粧に後述するマックス・ファクターが参加することとなる。またユダヤ人移民として映画俳優で有名になったのがカーク・ダグラスやポール・ニューマン、ローレン・バコールなどがいる。

**デュポン**：火薬メーカーとして19世紀から存在しており、第1次世界大戦によって莫大な富を築き、死の商人とも呼ばれた。第一次世界大戦の終了後は火薬の原料であるニトロセルロースから合成ゴムやセロファン、セルロースを合成。プラスチックを精製し、ナイロンストッキングは瞬く間に世界中に広がることにより火薬メーカー以上に財を成すことに成功した。スーパーマーケットでは食材をセロファンで覆うことにより保存や清潔に保つことができ、大量消費社会の手助けとなった。第2次世界大戦の際には再度火薬メーカーに戻った。娘(エセル・デュポン)はルーズベルト大統領の息子と結婚。原爆製造のマンハッタン計画にも参加した。

**ヘンリー・フォード**：自動車メーカーフォード社の創業者。反ユダヤ思想であり、アドルフ・ヒトラーを資金面で援助した。ナチスドイツで現地に独フォード社を設立しドイツの軍用トラックを生産した。75歳の時にはナチスドイツから勲章を授与された。

**ジョン・ピアース・モルガン**：アメリカに中央銀行が無かった時代にその役目をしていたことから多額の資金を各社・各国に援助する投資銀行。第1次世界大戦時にアメリカに渡航する裕福な投資家を乗せたJPモルガンが所有する船が氷山に衝突し沈没。これがタイタニック号である。1929年10月の世界恐慌による株価の大暴落の際にも事前に株を売り被害を最小限に食い止めた。第1次世界大戦後の1920年代のアメリカは未曾有の好景気であり、自己資金が無くても株や不動産を借金で買い、それを担保にまた借金することを銀行も了としており、まさにリーマンショックの様なことが80年前にも起こっている。

ドイツやイタリア・日本などを資金面で支援していたが、第2次世界大戦が起こると態度を一変し、資金を引き揚げた。

**マックス・ファクター**：ユダヤ人であるマックス・ファクターはロシアで貴族を相手にした化粧士であったが、ロシア国内に於いてユダヤ人に対する迫害（ポグロム）によりアメリカに亡命。ハリウッド映画に出演する女優の化粧を行うと共に、一般の人々に対する化粧品を製造することにより、世界最大の化粧品会社を創設することとなった。

**ココ・シャネル**：フランス人女性であり香水・化粧品メーカー、シャネルの創業者。アドルフ・ヒトラーの時代にドイツの協力者となり諜報活動（暗号名：ウェストミンスター）を行った。

**チャールズ・リンドバーグ**：世界初の大西洋単独無着陸飛行を成功し、空の英雄と呼ばれた。アメリカ大統領候補ともいわれた。アドルフ・ヒトラー率いるドイツを強く支持した。

**アドルフ・ヒトラー**：言わずもがなのナチス党党首。第1次世界大戦時には投獄されていたが、ドイツの国家予算の30年分といわれる敗戦賠償金を決めたパリ講和会議に強烈に不満を持つヒトラーは政治団体ナチスを設立。独特の演説によりドイツ経済に不満を持つ国民の支持を得て急速に支持を拡大した。当時現存していた議会制民主主義では何も決められない事に不満を持ち、全権委任法を制定し独裁国家を樹立した。国家事業・失業者対策としてドイツを縦断するアウトバーン（高速道路網）を作り、急速に経済が良くなった。敢えて重機を使用しないことにより多くの労働者を雇い、多くの国民を失業から救ったという功績の一面もある。自動車を大量生産することにより価格を下げ、一般国民も所有出来るようにした。そのデザインを任されたのが自動車エンジニアであったフェルディナント・ポルシェである。そのために設立された自動車メーカーはアメリカのフォード社と肩を並べる世界最大級の自動車メーカーとなった。その会社がフォルクスワーゲンであり、ポルシェがデザインした車が現在「カブトムシ」の愛称で呼ばれるビートルである。

大企業には週休2日制・週40時間労働や社員食堂の設置を義務付ける等、現在の労働法制にも通ずる政策もヒトラーが始めたものである。それらの政策によりドイツは世界恐慌からいち早く抜け出した。それらの成果もあって国民支持率は9割を超えることとなった。

共産主義であるロシアを敵としていたヒトラーではあるもののロシアと独ソ不可侵条約を締結し、イギリスやフランスを驚かせた（しかしその後ヒトラーは一方的に独ソ不可侵条約を破棄しロシアを侵攻）。しかしマネージメントの父と言われる経営学者ピーター・ドラッカーはこのことを予測していた。



～ 筆者プロフィール ～

小野田赤十字病院  
副院長 佐藤 智充(さとう ともみつ)

1970年、山口県生まれ  
2004年、山口大学大学院先端分子応用医科学講座  
診療科：外科  
専門医資格等：日本外科学会外科専門医、マンモグラフィ読影認定医、  
がん治療認定機構がん治療認定医、感染制御医（ICD）  
災害医療コーディネーター